

生産力と品質の向上に注力

ジャパンリビルト



ジャパンリビルトは今年4月には約20人の新卒採用を行い、生産要員を増強する

ジャパンリビルト(田中勝弘社長、大阪府堺市)は、パワートレーンから電装、気化器関連まで約30アイテムのビルド部品を自社生産する。高品質で豊富な商品を円滑に供給するため、今年は生産力と品質の向上に力を入れる。

新たにコンプレッサーの専門工場を計画。また、テスター機器の開発により品質検査の基準を引き上げ、商品の保証期間も延長する。

同社は大阪府堺市と岸和田市、栃木県の3カ所の工場で年間50万個のリビルド部品を

品質検査基準引き上げ、保証期間延長

生産する。2008年には岸和田工場の近くに床面積が約8300平方メートルの大型コアセンターを新設。これによって、既存倉庫と合わせて日本最大級のコアを保管することが可能になった。

今後はリサイクル事業者との連携を強め、コアの回収を強化する。生産能力を引き上げるため、商品別の専用ラインの増設も計画。今年4月には約20人の新卒採用を行い、生産要員を増強する。「積極的な採用は地域貢献活動の一環」としている。

一方、ATミッションや電動パワーステアの普及で、再生部品にも厳しい品質管理が求められる。このため、新たなテスター機器の開発で検査基準を引き上げ、よりの信頼できる商品の供給を図る。

「プロの技術集団の育成」を狙いに、今年には人材教育にも力を入れる。高い技術力と品質チェックを背景に商品の保証期間も延長し、顧客満足度(CS)の向上を目指す。